



特定非営利活動法人
雨水市民の会

理事長 徳永 暢男

〒131-0032 東京都墨田区東向島 1-8-1
TEL : 03-3611-0573 FAX : 03-3611-0574
H.P : http://www.skywater.jp/
e-mail : office@skywater.jp

NPO法人としての活動を展望する

- 雨水を活かすことが当たり前になる社会をめざして -

2006年8月に、雨水市民の会がNPO法人となって半年が経ちました。この間、理事会では、事務局体制を強化する一方、法人としての観点から会の事業、組織及び経営に関して検討を進めてきました。現在、理事会では長期的な視野に立って新たな活動戦略を練り上げていくために、理事会のなかに「総務」「事業統括」「広報・情報」「技術開発」「国際協力・支援」の担当チームをつくり、以下の4点について検討を進めています。

理事会では、2月中には上記の課題について検討結果をまとめ2007年度の活動に反映させていきたいと考えていますが、会員の皆様もご要望や忌憚のないご意見を事務局まで是非お寄せください。

検討のポイント

1 活動の持続性

子供から大人までの雨に関する普及・啓発、雨の文芸など雨に関する調査・研究、情報

発信及び出版、雨水の活用に関する技術開発や技術者養成及び雨水の活用に関する国際協力・支援などといった、これまでの会の事業を持続可能なものにしていく。また、そのために会員の参加と拡大をはかり、若い会員を増やしていく。

2 行政及び企業のパートナーとしての市民イニシアチブ

市民の立場から、雨を活かす法や制度の整備及び安くて良質な機器の開発を行政や企業と協働して推進していく。

3 社会貢献と会の安定的な経営

行政や市民団体から雨に関する普及・啓発事業などを受託したり、雨水の活用に関する国際協力・支援事業に関して政府や国際関係機関と契約したり、また多様な収益事業をすることで、社会貢献を図る一方で、安定的な経営基盤を築いていく。

4 拠点の整備

国際雨水センターの実現を目指し、恒久的な拠点と事務所を整備していく。



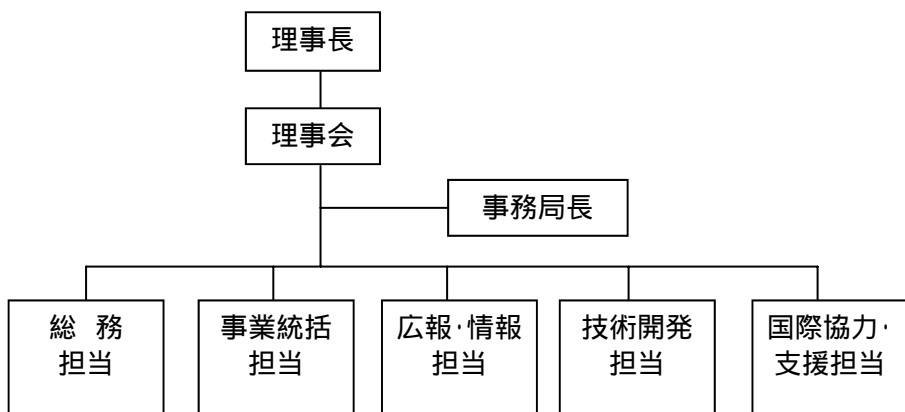
雨水利用は地球を救う



雨水市民の会

従前からのロゴマークをNPO法人雨水市民の会のロゴマークとして、新たな気持ちで引き継ぎました。
未永くよろしく V(∩-∩)V

理事会構成図



も く じ

4	4	4	3	3	3	2
雨の絵本ひるばから3ちいさな鳥	「環境NGOと市民の集い エコボランティア・エコ就職」に参加して	「スカイウオーター」で命を救うために	好評に応え「ブリーダー」再上映	新事務局員紹介	ホームページをリニューアルします	いのちと雨を考えた 環境ふれあいまつりに2000人参加

環境ふれあいまつりに2000人参加 2006年9月30日(土)、10月1日(日)

いのちと雨を考えた



「プージェー」に寄せて...

プージェーの家族が草原で生きている様は、とても格好良くたくましく見えた。命の輪について考えさせられた。(19歳女性)

命ははかなく切ないもので、人間は自然のひとつに過ぎない。しかし、それは、人と人との出会いと心の触れ合いに尊く美しいものであることを認識させられました。(49歳女性)

今日の日本の大人も子どもも忘れてしまっている、夢を持って強く生きることの大切さを学び取ることができました。自分の小さいときの貧しい開拓の地での生活を想起しました。(57歳男性)

当会も参画しているすみだ環境ふれあい館企画運営委員会主催で、昨年9月30日(土)、10月1日(日)の2日間に渡って環境ふれあいまつりが開催されました。地元の方々もフリーマーケットなどで参加しました。延べ2,000人が参加し、学生ボランティアの活躍、ふれあい館を利用しているすみだリサイクルの会や他のNPOとの交流などもできて、実り多いイベントでした。来年も環境ふれあいまつりをすることが決まりました。

映画「プージェー」上映

環境ふれあい館には雨水資料室のほか、墨田区出身の探検家関野吉晴氏の探検資料室があります。この映画は、関野氏が1989年にモンゴルの大草原で出会った6歳の少女プージェーとその家族のドキュメンタリです。大自然の中で健気に暮らすプージェー家族のたくましさや最後のショッキングな出来事に「いのち」の大切さがずっしりと伝わってきます。関野氏はスペシャルトークで、モンゴルに対し少し以前の日本に通じる親近感を覚え、プージェーへの悲しい思いを語ってくれました。

バン格拉デシュ・チャイカフェ

雨水で命を救う国際協力(スカイウォータープロジェクト)で当会が支援しているバン格拉デシュにちなんで、チャイと手作

りクッキーを有料で提供。また、バン格拉デシュ製のグリーティングカードも販売し、お店は大盛況でした。

世界一受けたい雨の授業

会員の気象予報士原田龍彦さんは、雨はどこから来るのか、ペットボトルで雲を作る実験などを通じて分かりやすく解説しました。また、いざというとき五感を働かせて自らが水のランクを決めて飲む方法を人見達雄さんが伝授して好評でした。他に、酸性雨調査研究会の権上かおるさんの授業「きれいな雨が地球を救う」も行われました。

雨粒実験装置の展示

空から降ってくる雨の形は雫型でなく団子型です。きらきらと光る粒がダンスをするようにふわっと動きます。魅入られて動けなくなった人もいました。

雨水探検隊活動報告展示

雨水探検隊の子どもたちによるふれあい館の「雨水たんぼ」の稲作り、荒川での生物観察会などの様子を展示。

雨の絵本読み聞かせ

雨の絵本ひろばスタッフの手作りによるペープサート(「はらぺこあおむし」のリアルな虫の動きが好評)、紙芝居などを織り交ぜ、子どもたちは絵本の世界を満喫しました。今後月1回の定例読み聞かせ会にも来てくれそうです。



おもしろ雨体験

晴れているのにここだけは雨? 子どもたちに人気だった。(雨水利用事業者の会主催)



学生ボランティアの協力で盛り上げられました



雨の絵本ひろばでは子どもたちに風船アートが大人気。学生ボランティアが懸命に教えた。

天気がよく、バン格拉デシュ・チャイカフェの飲み物は飛ぶように売れた。



ホームページをリニューアルします

インターネットは、世界に通じています。NPO法人として、雨水市民の会の活動を地域から世界に広げていくためには、より多くの人にそれを伝えていく必要があります。

ホームページのリニューアルの検討を進

めていましたが、会員の松本正毅さんに依頼し2月中旬までに刷新する予定です。英語版の整備も行います。

また、そのメンテナンスは事務局で行うこととし、新たに早坂悦子さんにお願いすることになりました。



構成案

What's NEW

雨水市民の会とは？

組織概要、入会案内、入会フォーム

活動報告

国際協力活動、分科会の活動、

世界のネットワーク、沿革

ニュースレター

なるほど雨水利用

日本の雨水利用、世界の雨水利用

雨水相談室

雨の美術館

雨と文芸、雨の写真館

図書館

雨水関連図書、雨の絵本ひろば

雨水製品情報

PR Shop

市民の会発行書籍、CD、

雨水利用グッズなど

LINK

会員向け掲示板

すみだ環境ふれあい館雨水資料室

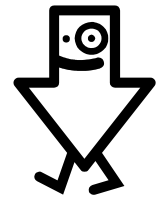
新事務局員紹介 早坂悦子 さんです

はじめまして、昨年10月より事務局の仲間入りをした早坂悦子と申します。まだ、雨水に関しては新米ですので、皆さんに教えて頂きながら会の運営、企画がスムーズに行われるよう、がんばっていききたいと思います。

私は「考えるときは地球規模で行動は身の回りから」という視点で、水環境学習「家庭から水を汚さないためにできること」を地域や学校などで伝える活動をしています。雨には超軟水という“すごい力”がありそれを利用すれば、いつも使っている洗

剤の半分で汚れが落とせ、環境にも配慮できます。

事務局体制も整い、月曜日から金曜日14時から17時まで待機しておりますので、ご遠慮なくご連絡ください。事務局一同、命を育む“雨水”を地域の方々やもっと多くの人たちが活用できるよう、皆さんとともに、活動していきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。



財)イオン環境財団から二〇〇七年のスカイウォータープロジェクトに対し、一五〇万円の助成金が決定しました。

好評に応え「プージェー」再上映!

開場 午後6時

2月23日(金) 上映 午後6時30分から 曳舟文化センター・ホールにて

住所:墨田区京島1-38-11 電話:03-3616-3951

交通:京成線・京成曳舟駅より1分、東武線・曳舟駅より3分

前売鑑賞券発売中!

事務局へお申し込みください

大人800円(当日1000円)、中学生以下400円(当日500円)

主催:雨水市民の会 共催:墨田建設業協会 後援:墨田区、東京商工会議所墨田支部、本所法人会



“スカイウォーター“でいのちを救うために

2月10日から
バングラデシュへ

なぜスカイウォータープロジェクトが始まったか

バングラデシュでは、人口約1億3千万人のうち約5700万人がWHOにおけるヒ素の飲料水水質基準を上回る地下水を飲んでおりと推定されています。ヒ素は容易に吸収され、体内に蓄積していきます。ヒ素で汚染された水を長期間飲み続けると皮膚にメラニンが沈着し、やがて一部が角質化、最悪の場合がん化します。雨水市民の会では、バングラデシュの年間平均降水量が日本の1.5倍近い2500ミリもあることに着目し、ヒ素で汚染された地下水に替えてこの豊かな雨水を活用することで人々の生命を救えないかと考え、2000年から海岸地域を中心にスカイウォータープロジェクトに取り組んできました。沿岸一体の地下水は、ヒ素汚染に加え塩害も深刻です。

これまでの成果

乾季を乗りきるには雨水タンクがどうしても必要です。雨水市民の会は、現地で「ピットラトリン」(汲み取りトイレのようなもの)のパーツとして利用されているコンクリートリングに着目し、これを活用して雨水タンクを開発しました。これまでのフェロセメント製などに比べて安価な上、コンクリートリングをトイレと雨水タンクの双方に活用することにより、飲み水と衛生の問題を一挙に解決できるメリットもあ

るからです。

これまでに現地NGOの要望にもとづきコンクリートリングを活用した1500、1800、2000及び3200リットルといったさまざまなタイプの雨水タンクを、全体で約170基設置しました。しかし、2006年1月に現地調査した結果、5人家族が乾季を乗り切るためには、設置した容量では足りず少なくとも3600リットル以上の容量が必要であることが明らかになりました。そこで、2006年度は現地NGOと協働してこれまでにタンクを取り付けた住民に対して、雨水の使用実態に関するアンケート調査と聞き取り調査を行うとともに、不足する容量を補うために、住民の要望にもとづき雨水タンクの追加設置を行いました。

新たな展開へ向け、いざバングラデシュへ

今回のバングラデシュ行きのねらいは、アンケートの集計結果とタンクの追加設置に関して、地元パートナーNGOや住民との意見交換を行うことにあります。2月10日から徳永理事長、村瀬事務局長、荒井会員らが現地に向かいます。今後は、この結果を元に、雨水利用の設計・施工に関するマニュアルの作成につなげていきたいと考えています。これが完成すれば、バングラデシュのみならず、ネパールなど同様の問題を抱えているアジアの他の地域にも応用できるでしょう。(村瀬 誠)



「環境NGOと市民の集い・エコボランティア・エコ就職」に参加して

昨年11月23日(祝)、早稲田大学で開かれた地球環境基金主催の「地球環境市民大学校 環境NGOと市民の集いエコボランティア・エコ就職!」という集まりに、村瀬事務局長、糸賀理事、荒井会員、柴の4人で参加しました。今年は25団体と200名を超える市民が参加して開催されました。当会は村瀬事務局長がスカイウォータープロジェクトを中

心に活動紹介しました。「マッチングタイム」と称して、興味をもった若者が各展示コーナーにやってきて交流する機会があり、給料は安くてもNGOで生き甲斐をみつけてみたいと考えている若者が結構いると実感しました。私たちの会もそんな若者たちに活動を引き継いでいってほしいと思いました。(柴 早苗)

雨の絵本ひろばから

-3-



「ちいさな島」

作：ゴールデン・マクドナルド 絵：レナード・ワイズガード 訳：谷川俊太郎
童話館出版 1947年度コールドコット賞受賞

大きな海の中に浮かぶ無人の小さな島の物語である。何の変哲もなさそうな島の、自然の移り変わりや生態系の豊かさが淡々と詩的に表現される。モノクロとカラーの絵が不思議に島の姿を彷彿とさせる。

そこにヨットで家族に連れられた子猫がやってきて、島と対話する。「なんてちっぽけなところだ」 きみも同じだと言う島に、子猫は、自分は足が地面についているが、君は地面から切り離されていると返す。魚を捕えて聞いてみると、泳げない猫に魚はすべての地面が海の下で一つにつながっていることを教える。その秘密を知り猫は満足して帰っていった。そしてまた同じ自然の営みが繰り返される。

童話『星の王子さま』で、きつねが王子に「一番大切なことは目には見えない」と、星に残してきたバラがかけがえのないものだを教える場面が思い浮かんだ。華々しいこともなく、そこにそのままあり、生き物のゆりかごになっている島の姿、佇まいが潔く凛々しい。それに猫派の私としては、小生意気な印象の子猫が、魚の話に満足するという点も面白かった。(柴 早苗)